

原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち

7月26日に自然エネルギー市民の会第21回通常総会を開催しました。総会に先立ち映画「原発をとめた裁判長、そして原発をとめる農家たち」を上映しました。

映画は、2014年に関西電力大飯原発の運転差し止めを命じる判決を下した福井地裁の樋口裁判長が退官後も原発の危険性を伝え続けている活動と、放射線被災で諦めた農業を太陽光発電によって蘇らせる福島の人々取材したドキュメンタリーです。

映画上映にあたり樋口元裁判長より次のメッセージをいただきました。全文を掲載します。

映画をご覧になった皆様へ

元福井地方裁判所裁判長 樋口英明

映画をご覧頂きありがとうございました。

映画の中で福島第一原発を遠くに臨む海岸のシーンが何度か登場しましたが、そこは「請戸（うけど）の浜」というところです。請戸の浜では津波によって多くの家が流され、消防団の方達は、3月11日の夜まで捜索を続けていました。その時、クラクションや物をたたく音から何人かの人が生存していることが分かりましたが、夜が明けるのを待って救出活動をする事になり一旦捜索を中止しました。ところが、翌3月12日午前5時ごろに、放射線量が高くなったということで福島第一原発から10キロ圏内に避難命令が出されました。放射能の心配がなくなり、救助隊が請戸の浜に立ち入ることができたのは1か月後のことでした。原発事故で亡くなった人がいないというのは嘘です。

現在、政府の避難計画は、原発事故が起きた場合、原発から5キロメートル以内の住民はすぐに逃げ出し、5キロを超える地域の住民は5キロ以内の人が逃げ終わってから逃げ出すというものです。しかし、原発から5キロ圏内で震度7の地震が来たら、多くの古い家は倒れると共に、耐震性の低い原発も大事故になるおそれがあります。倒れた家の中に閉じ込められた人、けがを負って動けなくなった人に放射能が襲いかかります。誰も助けに行けません。政府の避難計画は請戸の浜の悲劇がより大きな規模で再現されてしまうことを容認していることになるのです。たいへん恐ろしいことです。

脱原発運動の最も強力な敵は、原発回帰に舵を切った政府でも電力会社でもありません。脱原発の最も強力な敵は「先入観」です。「福島原発事故を経験しているのだから、それなりの避難計画が立てられているだろう」という先入観、「原子力規制委員会の審査に合格しているのだから、少なくとも福島原発事故後に再稼働した原発はそれなりの安全性を備えているだろう」との先入観、「政府が推進しているのだから、原発は必要なだろう」という先入観、「原発は難しい問題だから、素人には分からない」という先入観です。

その中でも最も強力な敵は「原発は難しい問題だ」という先入観です。原発の問題は決して難しい問題ではありません。次の二つのことさえ理解してもらえばよいだけです。一つ目は、原発は事故の時も自然災害に遭った時も運転をとめるだけでは安全にはならず、人が管理し、電気と水で原子炉を冷やし続けなければ必ず事故になるということです。二つ目は停電や断水が起きて人が管理できなくなった場合の事故の被害は極めて甚大だということです。現に福島第一原発事故では停電ただけで、「東日本壊滅」の危機に陥りました。

しかし、「東日本壊滅の危機」にあったことを知ったとしても、多くの人は「事故があったとき被害が大きいものは事故発生確率を低くしているはずだから、原発も事故発生確率が低いはずだ」という強固な先入観を持ってしまっているのです。

この映画の目的はそのような先入観を捨ててもらうことです。原発は事故が発生すれば被害がとてつもなく大きく、それにもかかわらず耐震性が低いために事故発生確率も高いのです。原発は、私たちの常識が通用しない発電施設なのです。

原発はやめるしかないのです。我が国は映画で紹介された太陽光のほか、風力、水力、地熱をはじめ自然エネルギーに満ちあふれているのですから、原発をやめても大丈夫なのです。

福島原発事故を教訓にドイツは 2023 年 4 月 15 日全原発の停止を実現させました。台湾では最後の第三原発 2 号機が 40 年の寿命により運転を終了し、台湾は 2025 年 5 月 17 日に原発ゼロとなりました。

2024 年 1 月 1 日、石川県珠洲（すず）市を震源とする令和 6 年能登半島地震が起きました。震源は、まさに、2003 年に凍結された珠洲原子力発電所の立地予定地付近でした。1980 年代において脱原発派は少数派でした。しかし、28 年間にわたる粘り強い反対運動によって、珠洲原子力発電所の建設は凍結されたのです。もし反対運動がなければ、福島原発事故に続く悲劇が繰り返されたと思います。また、この地震は震源から 70 キロ離れた志賀（しか）原発を襲いましたが、幸い、志賀原発は稼働していませんでした。もしも珠洲原子力発電所が建設されていたら、もしも志賀原発が稼働していたら、と思うと恐ろしいです。この地震は自然界からの最後の警告かもしれません。福島原発事故を経験し、原発の本当の危険性を知った私たちの責任は極めて重いものがあります。私たちの後続く人々のために、自然界からの警告に真摯に耳を傾ける必要があると思います。

自然エネルギー市民の会第 21 回通常総会の報告

日時 2025 年 7 月 26 日（土） 場所 クレオ大阪中央 3F

第 1 号議案 2024 年度事業報告及び決算承認の件

第 2 号議案 2025 年度事業計画及び予算承認の件

会則により定足数は会員の 1/5 で 25 名（会員総数 123 名）、出席は実出席、ZOOM、委任・書面決議を合わせて 57 名で開催され、全議案全員一致で採択されました。